

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

25日23時から26日02時にかけて、振幅の小さな低周波地震が5回発生しました。地殻変動や噴気活動に特段の変化はありませんが、今後の火山活動の推移に注意してください。

なお、山頂付近では、2017年9月以降、火山性地震の活動がやや活発な状況が続いており、2018年9月頃からは女岳^{めだけ}付近の地震がやや増加しています。地熱活動も引き続き認められています。噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・地震や微動の発生状況（図1、図2、図3-②～⑥）

2月25日23時から26日02時にかけて、振幅の小さな低周波地震が5回発生しました。震源はカルデラ付近と推定されます。低周波地震を観測したのは、2019年7月13日以来です。

その後、低周波地震は観測されず、地震活動に大きな変化は認められません。また、火山性微動は観測されていません。

山頂付近では、2017年9月以降、火山性地震の活動がやや活発な状況が認められており、2018年9月頃からは女岳付近の地震がやや増加しています。

・噴気など表面現象の状況（図3-①、図4～7）

仙岩峠監視カメラ（東北地方整備局）による観測では、異常は認められていません。

20日に陸上自衛隊東北方面隊の協力により実施した上空からの観測では、女岳及びその周辺の地熱活動及び噴気活動の状況に大きな変化は認められませんでした。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院及び東北大学のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

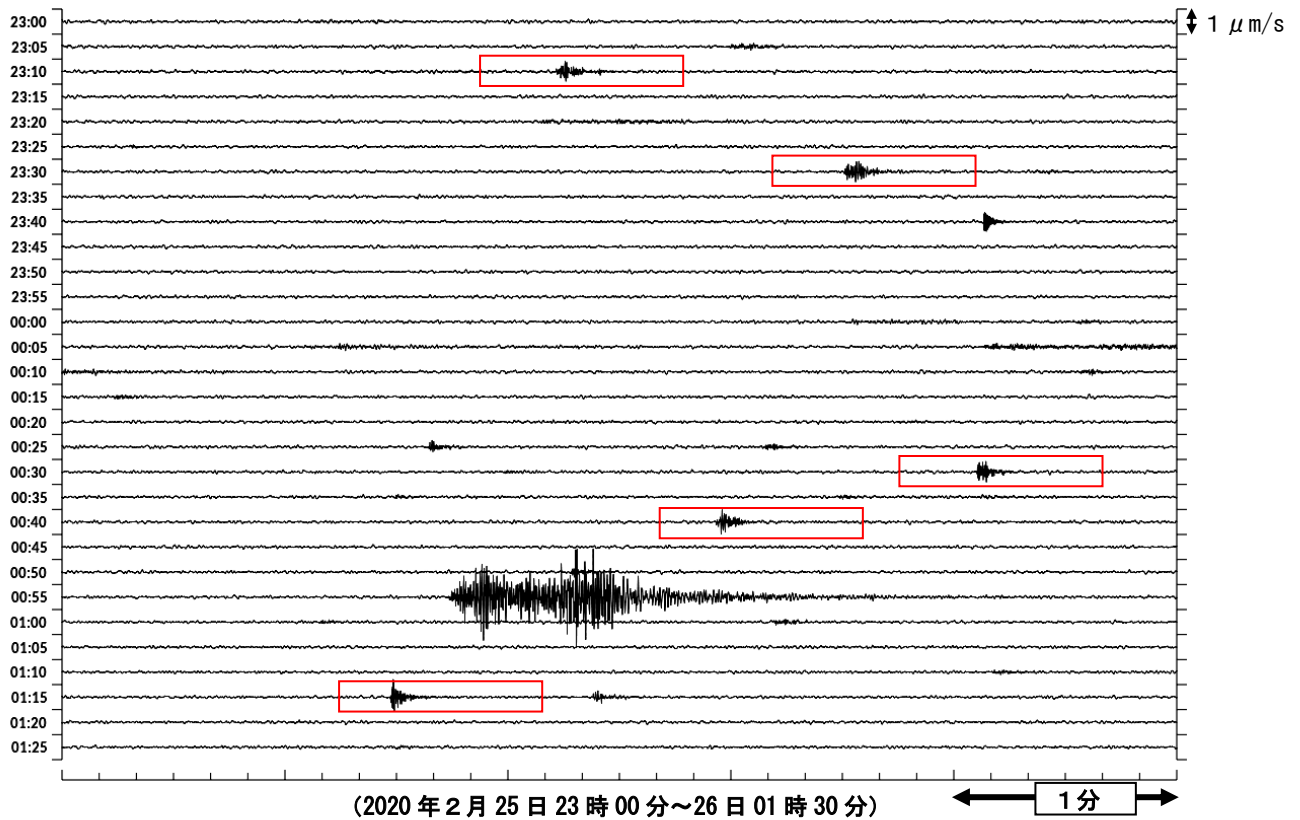


図1 秋田駒ヶ岳 低周波地震の発生状況（八合目駐車場観測点 上下動）
・25日23時から26日02時にかけて低周波地震（赤枠内）を5回観測しました。

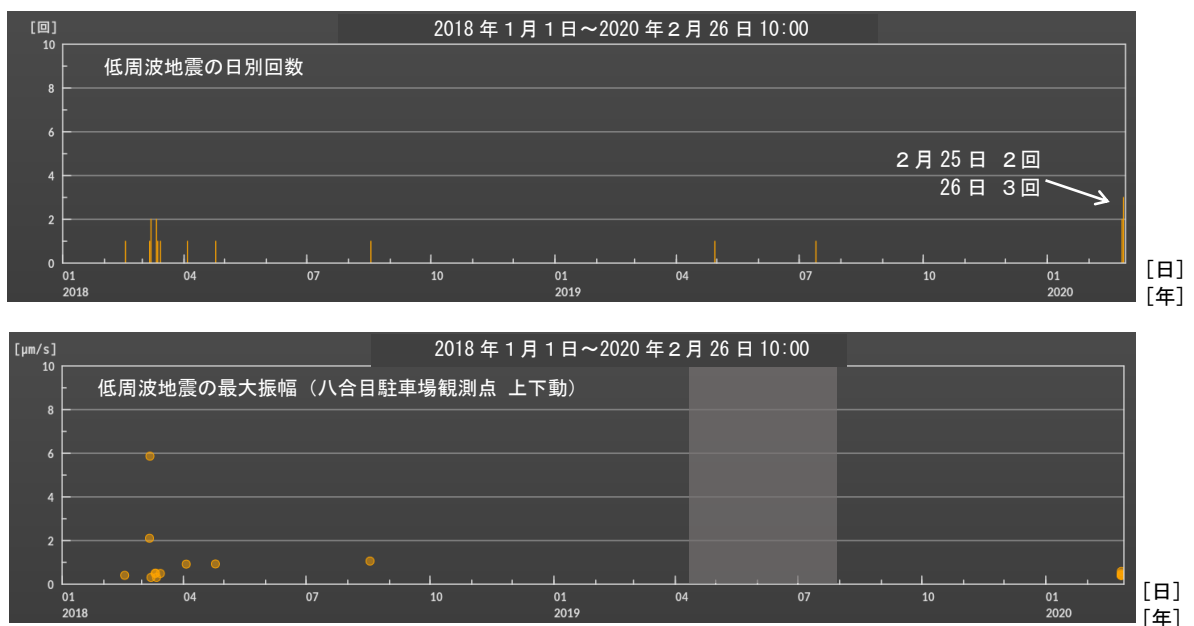


図2 秋田駒ヶ岳 低周波地震の日別回数と最大振幅（2018年1月～2020年2月26日10時）
・2月25日23時から26日02時にかけて、振幅の小さな低周波地震が5回発生しました。
・図中の灰色部分は八合目駐車場観測点の欠測期間を示しています。

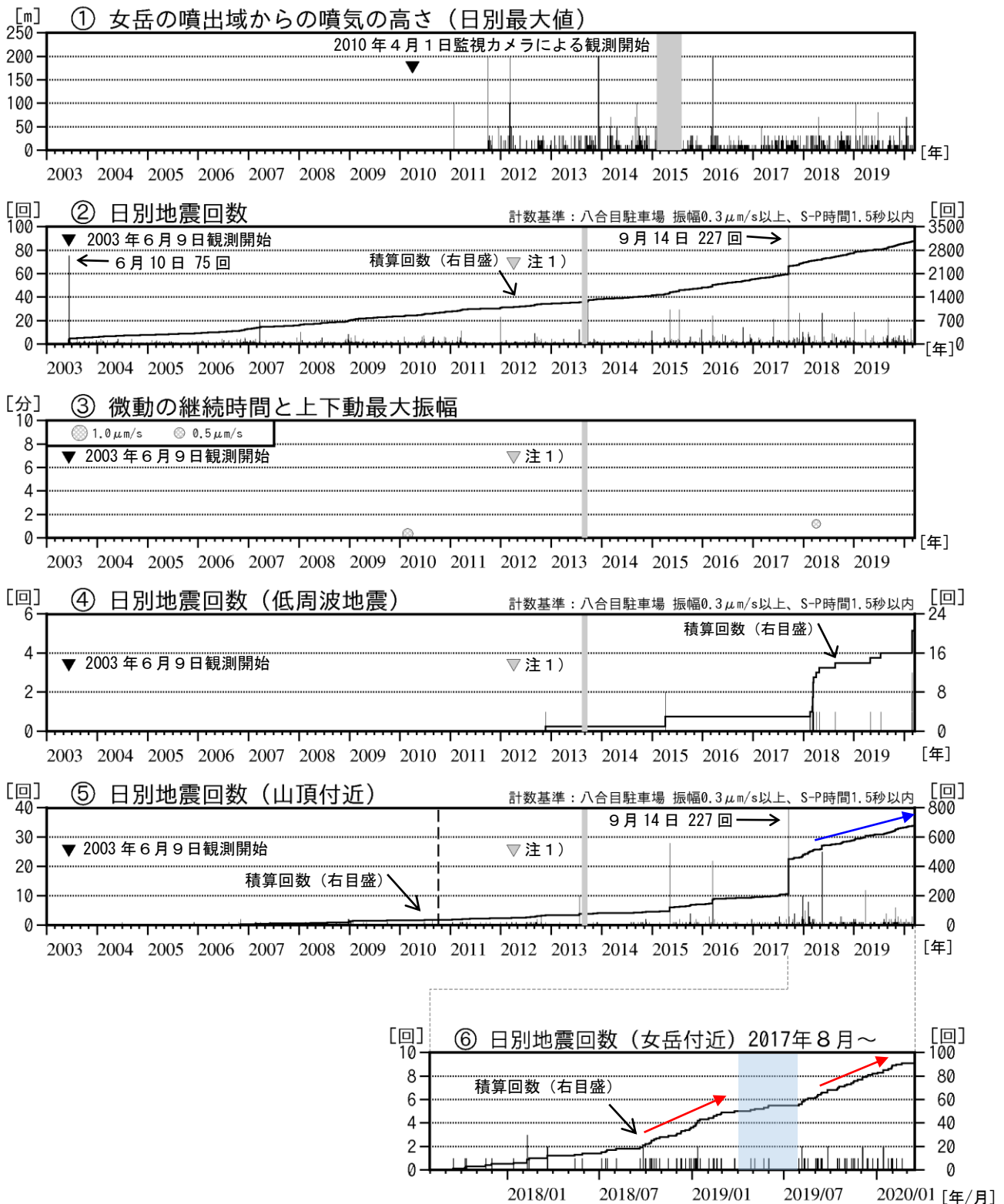


図3 秋田駒ヶ岳 火山活動経過図（2003年6月～2020年2月26日）

- ・山頂付近では、2017年9月以降、火山性地震の活動がやや活発な状況が引き続き認められており（青矢印）、2018年9月頃からは女岳付近の地震がやや増加しています（赤矢印）。
- ・①東北地方整備局が設置している仙岩峠監視カメラ（女岳山頂の南約5km）による観測です。
- ・②～⑥計数に使用した観測点は次のとおりです（角カッコ内は地震回数の計数基準）。
観測開始 2003年6月9日～東北大学秋田駒ヶ岳観測点 [振幅 $0.5\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間1.5秒以内]
注1 2012年4月1日～八合目駐車場観測点 [振幅 $0.3\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間1.5秒以内]
- ・⑤⑥は計数基準を満たす火山性地震のうち、それぞれ「山頂付近」「女岳付近」で発生したと推定されるものの回数を示しており、「山頂付近」の回数には「女岳付近」の回数も含まれています。2010年10月の八合目駐車場観測点運用開始（グラフ中の破線）以降は、山頂付近で発生している地震を概ね判別できていると考えられます。
- ・①～⑤の灰色部分は欠測を表しています。
- ・⑥の青色部分は八合目駐車場観測点の機器障害により検知力が低下している期間を示しています。

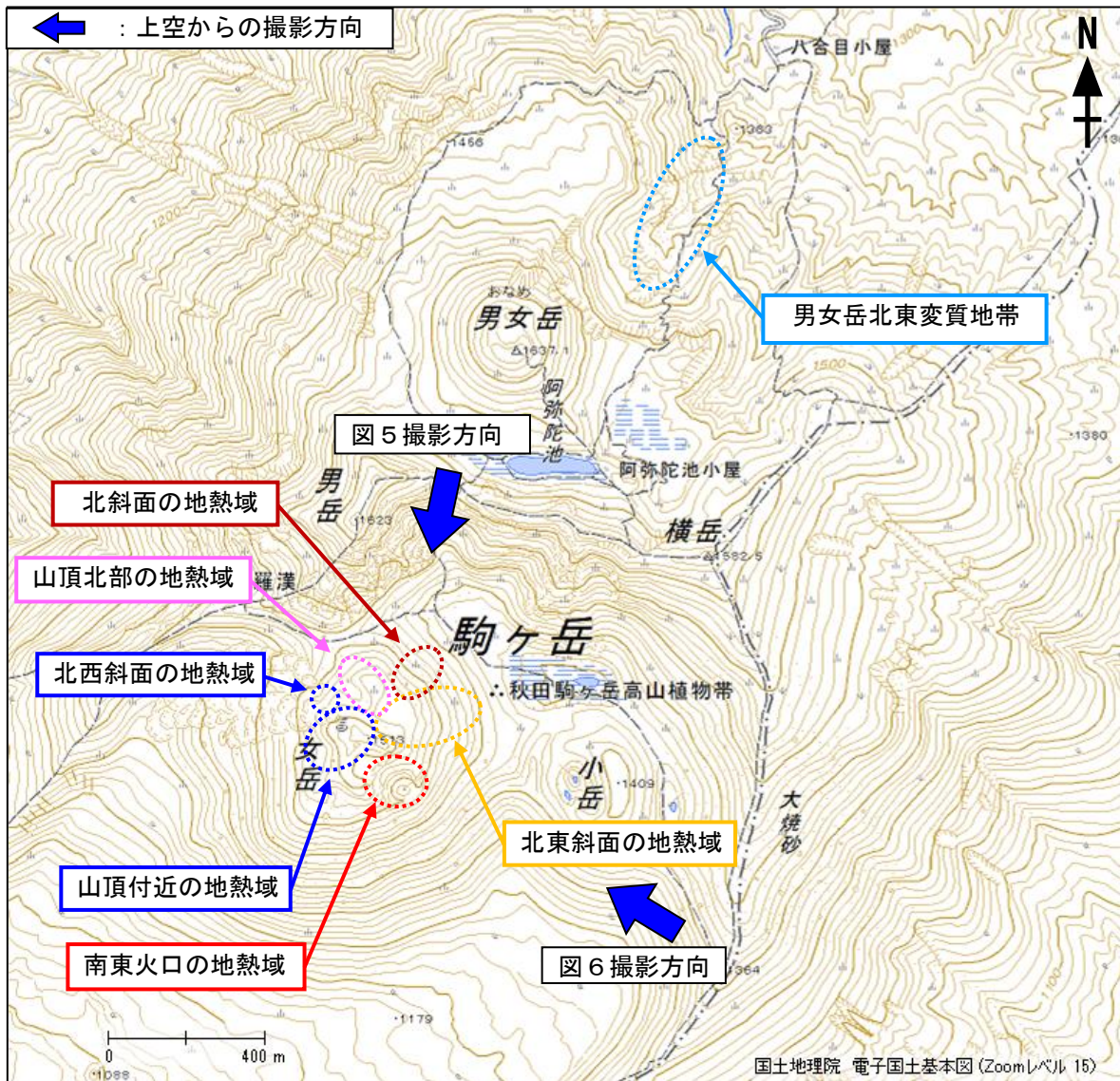


図4 秋田駒ヶ岳 女岳の地熱域の分布及び写真と地表面温度分布撮影方向

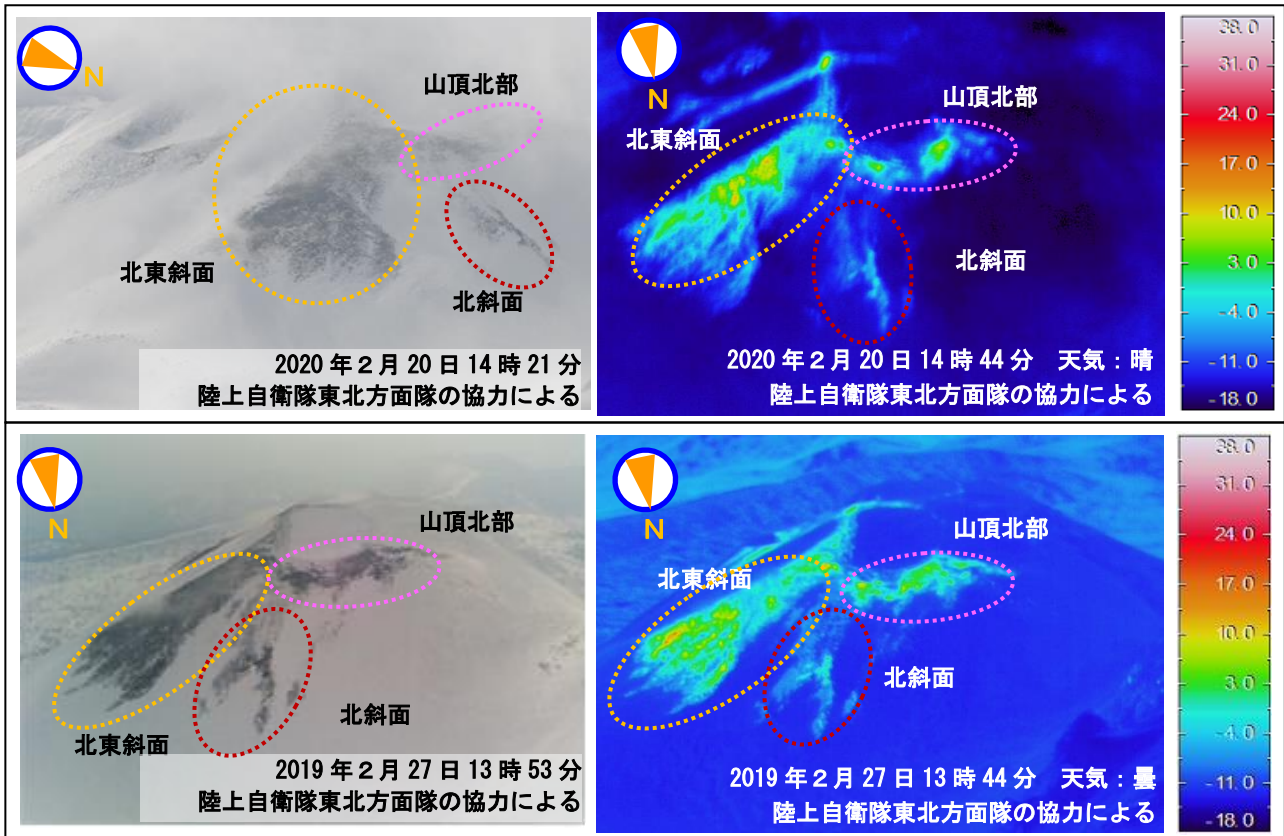


図5 秋田駒ヶ岳 上空からの女岳山頂北部、北東斜面及び北斜面の状況と地表面温度分布

・女岳山頂北部、北東斜面及び北斜面の地熱域の状況に大きな変化はなく、目視による観測では噴気の状況に特段の変化は認められませんでした。

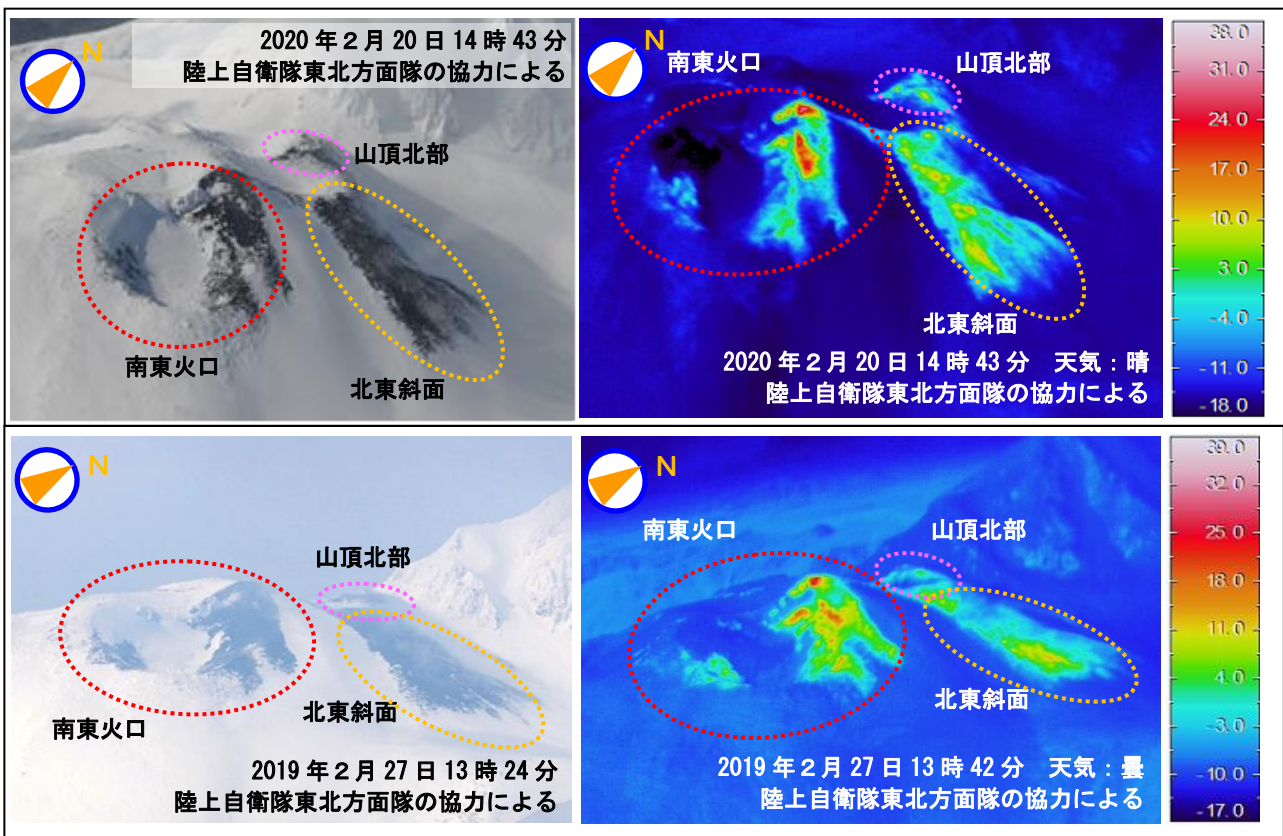


図6 秋田駒ヶ岳 上空からの女岳山頂北部、北東斜面及び南東火口の状況と地表面温度分布

・女岳山頂北部、北東斜面及び南東火口の地熱域の状況に大きな変化はなく、目視による観測では噴気の状況に特段の変化は認められませんでした。



図7 秋田駒ヶ岳 女岳周辺の噴気の状況 (2月26日)

- ・東北地方整備局が設置している仙岩峠監視カメラ (女岳山頂の南約5km) の映像です。
- ・女岳の状況に異常は認められていません。

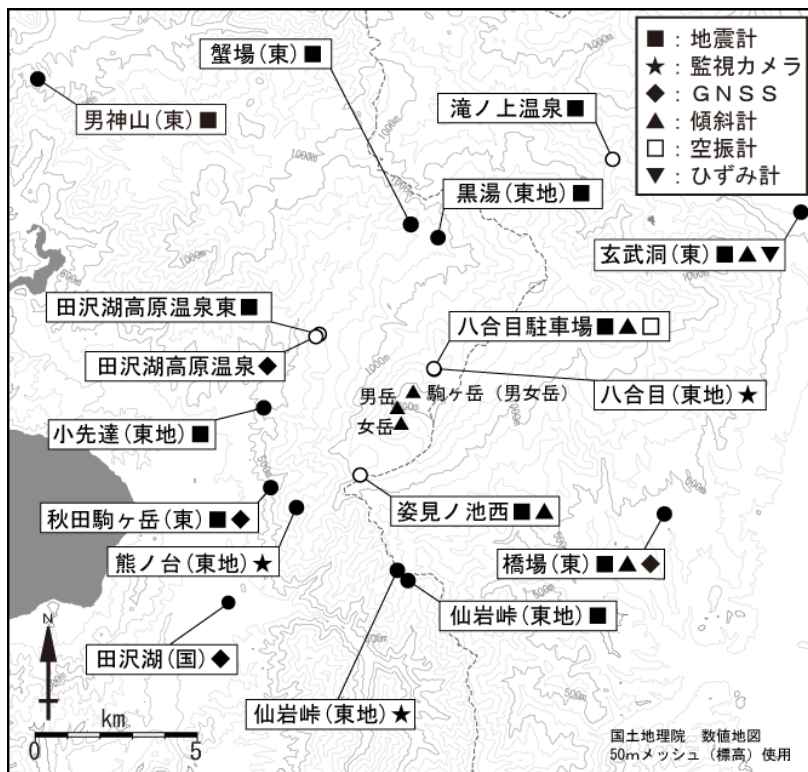


図8 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点の位置を示しています。

(東地) : 東北地方整備局 (国) : 国土地理院 (東) : 東北大学